

事業 プロセス	環境配慮 方針/措置	基本計画段階	設計段階	工事段階	供用段階	留意事項
<p style="text-align: center;">工 法 ・ 工 期</p>	<p style="text-align: center;">/措置</p>	環境配慮方針01：地形及び地質の保全				
		<p>・基礎工事における掘削範囲を最小化するための土留め工法を検討する。</p>	<p><b>【工事前現地踏査による確認】</b> ・工事前に現地踏査を行い、十分な配慮を検討することとする。</p> <p><b>【工事規模および用地の最小化】</b> ・施工は既存施設の敷地内で実施することとする。</p> <p>・工事施工ヤードは現行駐車場等の既存の施設跡地を活用し、工事用道路は既存道路を使用することとする。</p> <p>・既存の施設跡地及び既存道路以外で工事施工ヤード及び工事用道路が必要となる場合においては、スキー場や公園など既に造成地として利用されている区域を活用することとし、随時、事業者及び関係各所と協議を行い、決定することとする。</p> <p><b>【掘削方法の検討】</b> ・掘削を伴う各種の工事については、各種の工法を比較検討し、掘削の深さ、幅を可能な限り抑制するものとする。</p> <p>・基礎工事の実施にあたっては、掘削範囲を最小化するための土留め工法（親杭横矢板工法、シートパイル工法など）を検討することとする。</p> <p>・特に中腹施設においては、地質調査の結果を踏まえ、直接基礎形式を検討し、掘削量を可能な限り抑制するものとする。</p> <p><b>【土工における配慮】</b> ・展望台へのアクセス道路の改良にあたっては、盛土・切土規模を可能な限り抑制し、張芝又は表土吹き付けなどの法面処理を行うことで法面崩壊を回避することで、土工量を抑制することとする。</p>	<p>⇒設計時のボーリング調査等の結果及び現地の地形、既存施設内での施工区域等を踏まえ、工法及び機械を選定した。</p> <p>⇒現場担当者全員に、施工計画に関する事項と併せ、安全及び環境対策に関する教育を行っている。</p> <p>⇒施工は既存施設の敷地内で実施している。</p> <p>⇒仮設事務所及び作業員用の休憩所等は既存の駐車場跡地を利用すると共に、既存の道路を工事用道路として活用した。</p> <p>⇒スキー場から中腹・山頂エリアにおいて、工事施工期間、登山道が一部通行出来なくなるため、観光道路を保安施設で識別し、代替の登山道を確保した。</p> <p>⇒仮囲いが、一部伏見東緑地内に入らざるを得なかった為、管理者である札幌市と協議を行い設置した。</p> <p>⇒スキー場から中腹・山頂エリアにおいて、工事施工期間、登山道が一部通行出来なくなるため、観光道路を保安施設で識別し、代替の登山道を確保した。</p> <p>⇒掘削勾配は土質・掘削深さに適合した勾配とし、掘削幅は最小限の作業スペースを確保し施工している。</p> <p>⇒山頂エリアにおいて、輸送施設基礎部分が天然記念物林に近接しているため、H鋼親杭横矢板工法を採用し掘削範囲の縮小をして法面崩壊の対策を行なうとともに、天然記念物林の保護に努めた。</p> <p>⇒中腹エリアにおいて、施工ヤードに藻岩山神社があり、また、天然記念物林も近いので、山頂エリア同様のH鋼親杭横矢板工法を採用し、藻岩山神社及び天然記念物林の保護に努めた。</p> <p>⇒杭打ち（山留杭）工事の施工にあたり、後方小旋回型であるリーダーレス型基礎機械（SRX3500）による杭打ちを行うことにより、切盛土の発生を抑制し、親杭横矢板工法による土留を行い、掘削範囲を最小限で施工している。</p> <p>⇒設計に基づき盛土・切土を極力抑えた施工を行うとともに、法面処理に関しては工事の最終段階における表土及び枝葉の処理等も含めて検討を行った。</p>		